

# 金融再生プログラムの検証

竹中金融担当大臣主導による「金融再生プログラム」の登場からまもなく二年。その主眼とした金融システムの安定と不良債権問題の解決は達成されつつある。本質的

評価（功罪）は時間を要しようが、ここでは政策立案の背景とその下における金融行政の変容、金融経営へのインパクトを中心に中間的総括を試みる。

## スピード感と

## 経済合理性の貫徹で成果

### 課題は経費を削減し資本効率を高めること

日本経済が長く低迷していた根本原因は、銀行の安易な貸出によって過剰貸出が起り、借手側に過剰債務、過剰設備、過剰雇用という「三つの過剰」が生まれたことにある。この三つの過剰を調整し経済全体の不均衡を是正する必要があったが、ようやく調整されて経済のバランスがとれてきた。金融再生プログラムが大きなフレームワークとして不良債権問題の終結に向けて達成すべき目標値と時期を明確に決めてそれを推進した意義は大きい。これにより主要行の不良債権問題は一応終息を迎えつつある。

金融庁 顧問（前日銀審議委員）

中原 伸之



### 銀行の不健全性の

### 払拭へ

○二年一〇月三日、「金融分

野緊急対応戦略プロジェクトチーム（PT）の初会合で私が強く主張したことが二つあった。第一に、「バブル総決算の

絶対の機会であり、日本を長年苦しめてきた不良債権問題を解決する最後の機会である」ということである。全国銀行ベース

の貸出額が追貸しによりバブルの崩壊後も増え続けていたものの、九六年の一～三月期（五三七兆円）をピークに大幅な減少

# 不良債権は

# コントロール可能な領域に入った

## 公的介入の縮小と平時下のルールづくりを

大和総研 副理事長

賀来 景英



主要銀行の決算状況を見ると、〇三年度決算では、不良債権処理に着手した九三年度以降初めて、不良債権処理額が本業の稼ぎである業務純益を下回った。不良債権比率も〇四年三同期には五%程度にまで低下、政府の目標達成は射程圏内に入った。もっとも問題は全面的に解決されたというには遠く、中小・地域金融機関における不良債権処理の遅れや公共部門債務の問題等、残された問題は依然として大きい。不良債権処理後の金融産業の課題は、新しい環境の下で成長産業たりうる収益基盤を構築することにある。この点で邦銀の問題は二つありこれに心えることこそが日本の金融産業の課題である。

### むずかしい再生プログラム の寄与度評価

長く日本経済の宿痾の観を呈した不良債権問題が、ここ二年ほど来、初めてはつきりと解決へ向けた前進をみたことはず

に明らかである。一〇年以上にわたり、業務純益を上回る累計七〇兆円に垂んとする不良債権処理を進めたにもかかわらず、減少することのなかった主要銀行の公表不良債権残高が、〇二年九月期を境に、減勢に転じた

(第1図)。〇三年度には、不良債権処理に着手した九三年度以降初めて、不良債権処理額が本業の稼ぎを示す業務純益を下回った。

主要銀行の〇四年度不良債権処理費用の貸出残高比(信用コ

スト率)は〇・六%程度と、八〇年代までの日本の異常に低い水準にはとつてい及ばないといえ、近ごろのアメリカの水準とほとんど変わらぬ「巡航速度」に近づくと期待される。不良債権比率(不良債権残高/貸